

人むすびの場

第34回テーマ

“被災地興の現場から”

～若手起業家による新たな産業起こし～

日時	平成23年5月20日(金) 午後7時～9時
会場	日本橋公会堂会議室
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝

19:05 ◆スピーチ
「被災地興の現場から
～若手起業家による新たな産業起こし」

畠山 茂陽(はたけやま しげあき)さん
(NPO法人ファイブブリッジ 理事長／河北新報社メディア局)

19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 高重和枝

20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(三船)



「被災地興の現場から」

～若手起業家による新たな産業起こし～

ゲスト 畠山 茂陽(はたけやま しげあき)さん

(NPO法人ファイブブリッジ 理事長／河北新報社メディア局)

- 大きな被災を受けた仙台市若林区在住です。NPOでリアルなコミュニティ、新聞社のメディア局でインターネットでニュースの更新をし、ネットのコミュニティをつくっています。
- ファイブブリッジは、仙台市青葉区で、地域活性化や人材育成をテーマとして、若手起業家やサラリーマン、OL、学生などが世代や業種を超えて集えるで自由なコミュニティ。
強いキズナのつくり方3ヶ条
 - ①いつでも入れるたまり場をつくる、
 - ②定例会のすすめ(毎週、毎月、飲みながらテーマを決めて、
 - ③メーリングリストをつくる、こと。
- 復興フェーズは、第1週:連絡不通、水、ガスが問題
第2週:中小企業の支払の問題
第3～4週:生活復旧モードに入る ⇒ 仕事がなくなっている人へのサポート
- 今回の被災はエリア毎に違っているので復旧に3年はかかります。生活復旧のミスマッチは、1対1でつながっていないから、そのためには、個のつながりをつくるタマリ場が必要です。
- 被災地では、風評被害が多いです。
- 産業を復興させていくものづくりの話をNPOでしています。人が集らないところをどうしていくか？
- 保存情報(アーカイブデータ)はグーグル、ストリートビューで記録、メディアテイクで後から見られる記録を残しています。
- 被災エリアの人は、「良い意味で途上国になった」「豊さは生活レベルとは違う」という思いでいます。たとえば、「仮設住宅が入ってこない」と自ら情報発信すると、直接連携して支援の手が入ってきます。
- これからは被災地が自律自活のフェーズを早くしていくことが必要になります。そのための支援として
 - * 応援買い 食いつながりをつくる
飲食店で食材を食べる／塩釜の「復興がんばろう！ぎょうざセット」を買うとその売上の10%のお金で餃子を被災地へなど
⇒顧客をつくり、復活へ
 - * “No More 自粛” 1ヶ月後からTwitterで発信
 - * メッセージが必要
- 海外向けに、なぜ被災地に残っているのかを母国語で動画配信

●瓦礫撤収費用などは国費で行いますが、自主自活の支援には、中長期のつながりと次世代を育て、産業を起こしていくことが重要になります。ファイブブリッジから立ち上がった3つのプロジェクトを紹介します。

1. 「復興応援ファンド」(トラスト制度)は、岩手・宮城沿岸被災6社が連携し、運営会社が投資家と事業者をつなぐマイクロファンドで1口1万円のうち、寄附50%、出資50%で長いつながりで応援しています。
「義援金」(赤十字)とは違う5年くらいの「支援金」として、応援の思いをお金に託し、復興を見届けています。
起業する人をサポートする新たなネットワークです。
2. 「震災ツーリズム」は、新会社を設立し、企画しています。松島の観光船や鳴子温泉などをまわる企画をしました。
震災ガイドがついています。防災学習旅行企画は、大学機関などとも連携し、津波の防災エリアの方の体験談を聞き、宿泊してもらい産業を元気にします。
3. 「物販」は、銀座拠点に人の絆をつくり、広告・イベントの人が行商人になって商品を売り歩く。まさに、江戸時代のように。

これからも復興に向けてがんばる人の活動を、ファイブブリッジに集う仲間とともに、応援していきます！！



畠山 茂陽(はたけやま しげあき)さん プロフィール
(NPO法人ファイブブリッジ 理事長/河北新報社メディア局)

1969年生 宮城県仙台市出身。仙台一高から 日本大学法学部新聞学科 (広報・広告論ゼミ)に進み、卒業後、河北新報社入社。広告局、東京支社、事業局、広告局、メディア局、東京支社、メディア局で勤務。

HP&ブログアドレス = もっと、わかばやしく!『新聞家』
応援マン日記」

<http://plaza.rakuten.co.jp/wakabayashi/>

=「東京で地域愛を叫ぶサラリーマンのブログ」

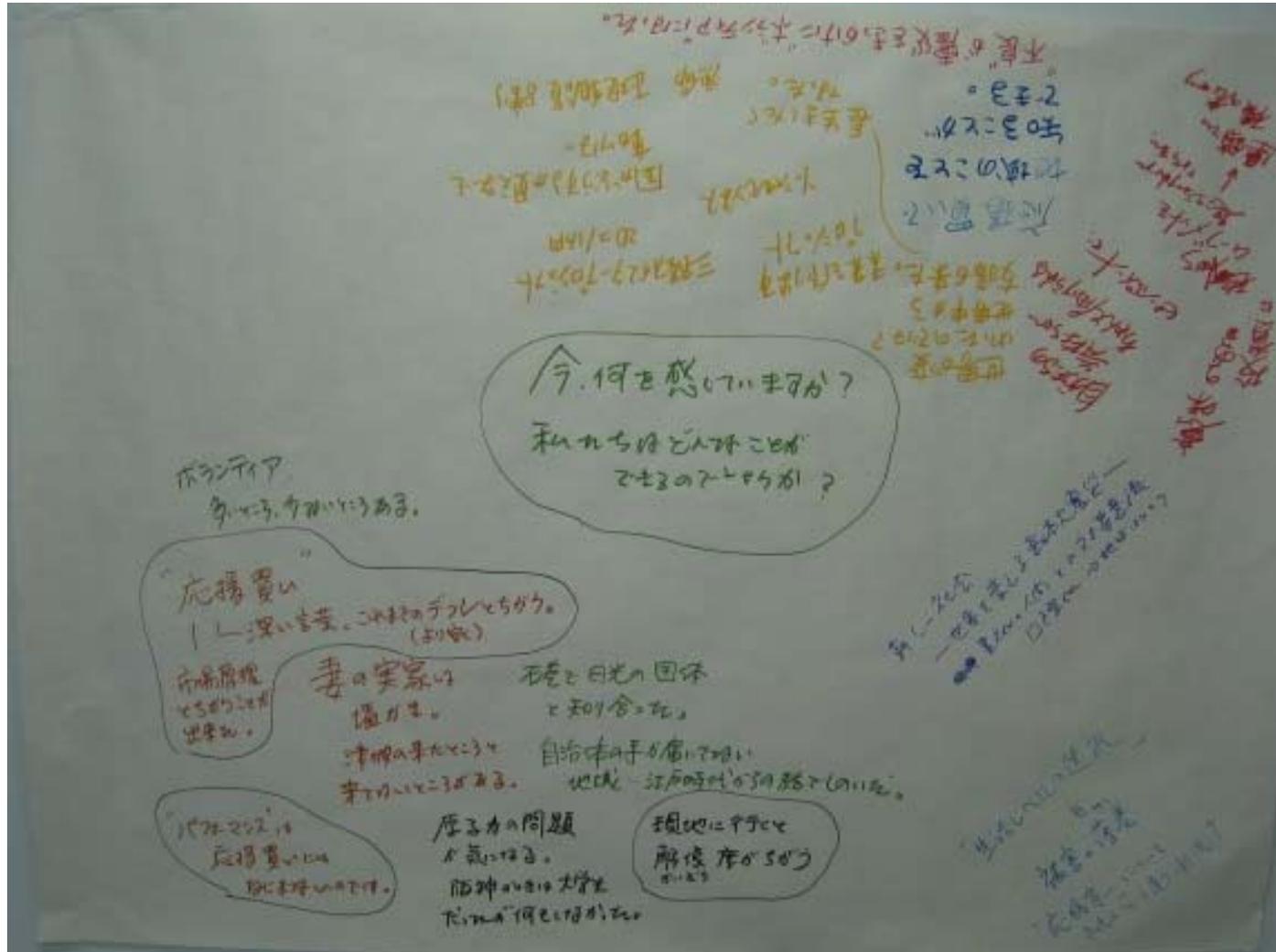
<http://flat.kahoku.co.jp/u/flat05/>

人むすびカフェ



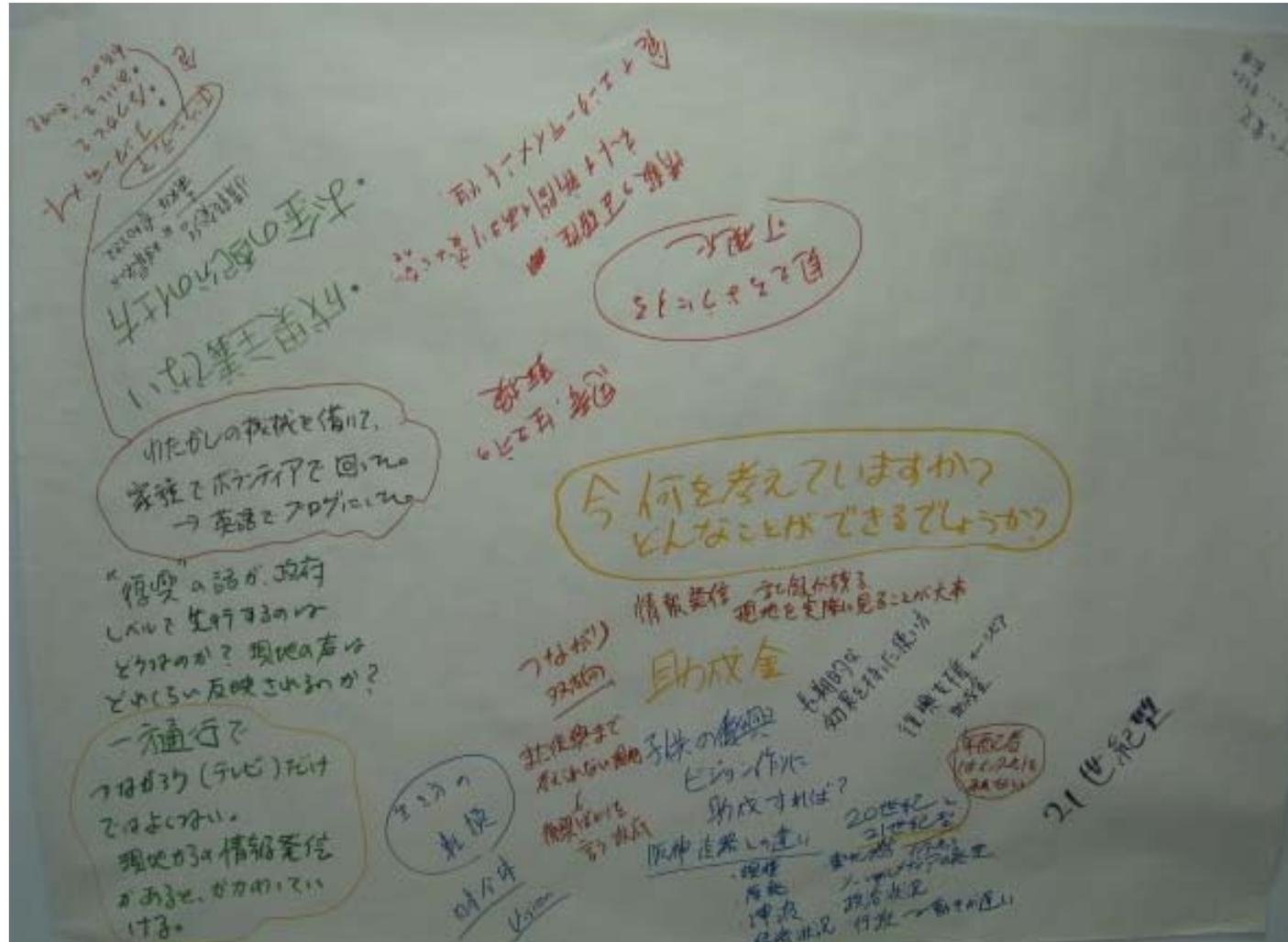
人むすびカフェ

「今、何を感じていますか？私たちはどんなことができるでしょうか？」



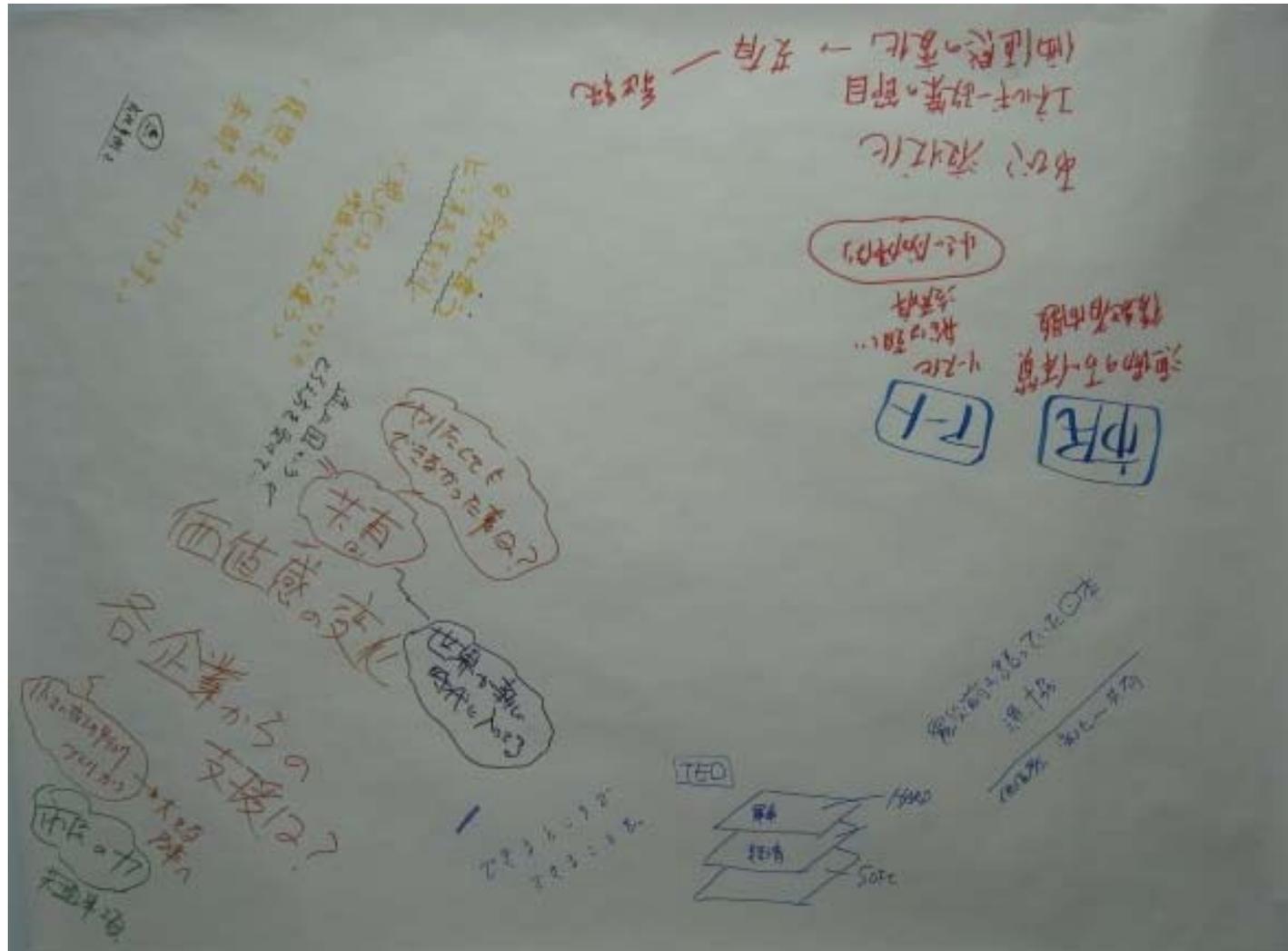
人むすびカフェ -2

「今、何を感じていますか？私たちはどんなことができるでしょうか？」



人むすびカフェ - 3

「今、何を感じていますか？私たちはどんなことができるでしょうか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・復興に関して真剣に考えている方がたくさんいる事
- ・んーいろいろ
- ・20世紀型と21世紀型の支援は違う。
- ・現地の人や組織と関わりを持つ事が必要。友達を作ったり、長期的な関係
- ・価値観が変わった。世界が変わる動きが加速しているようだ。
- ・部分的な復興ではなく。長期的なvisionで、支援を続けていくことが大事だと思いました。
- ・実際に分け入ることの大事さ
- ・同じように何ができるか考えている人がたくさんいる。
- ・visionとか、思いに対して助成 → 厳しい事後評価を避ける
- ・支援には様々な形があるということ
- ・あらためて、大変な震災だったんだなあ、とふりかえろ、この時に際して、皆、いろいろなことを考えているんだなあ、と問題意識の高さにまた感心しました。
- ・情報をどうより分け、発していくか？
- ・個々のつながりの大切さ
- ・つながっていくものだ、と感じました。(一見、初対面かと思いきや何らかのつながりがある・・・) 日々の考えや行動がそうさせるのかな。
- ・震災をきっかけに、人々の価値観が変わってきているということ
- ・やはり、資金(援助)が具体的に使われるという面が必要です。
- ・みなさんの考えていることが似ている。たくさん意見がある。
- ・これからは義援金ではなく、支援が直接届くファンドやNPOへの支援が長期の支援になっていくのではないか？
- ・震災復興支援は、人のつながり方が変化するきっかけになりそうだ。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・ 10年後に自分が住みたい街をつくるつもりで取り組む。
- ・ たまり場(畠山さん) 価値観の変化。それを共有していけるか。(ワールドカフェで)
- ・ 人間は自分のエゴとのたたかい
- ・ 人と人の繋り、当事者意識
- ・ 応援買い=これまでの市場原理とはまったく違う方向の流通
- ・ わた菓子を被災地で作った、というエピソード
- ・ 新しいスキーム、考え方
- ・ 震災で世界が変わった
- ・ 情報発信
- ・ 21世紀型の復興、世界のあり方
- ・ 21世紀の支援は20世紀とは違う！
- ・ 変化
- ・ 「市民の力」「21世紀型」「災害情報ボランティア」
- ・ コミュニケーション(県をこえた) 資金が必要
- ・ つながる
- ・ 世界が変わったのではないか？
- ・ 被災者は、負担が多くなる国民のことを考えて早い自立が必要
- ・ 『応援買い』と東北各市町村を支える『サポーター地域』を全国につくること

本日の感想③

*** その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。**

- ・応援買いには是非関わっていきたい。たまり場楽しかったです。
- ・良かったことーフランクで気楽だった。
残念だったことー時間が短い。しかし、時間はいくらあっても足りない。
- ・15～20分は短すぎる(一人1回しか話せない)
→ 一度、2回でやってみてほしい。
- ・テーマに沿って話すのは中々難しかったです。
- ・やっぱり時間がなかったなあ。
- ・途中からの参加だったので、次回からはじめから参加したいです。
- ・やはりどんなやり方でも「このトピック深堀したい」が出てしまうこと
(時間的制約など)
- ・ワールドカフェの時間が短い……
- ・ちょっとraundが短かった。
- ・いろいろなbackgroundや価値観を持つ人の話がきけ、刺激されました。
ありがとうございました。
- ・いろいろな“変化”がいろいろな場で起こってきていると感じられた事が
良かった。
- ・畠山さんと知り合えて良かったです。今日も人のつながりが増えました。
- ・様々な年代、職歴をお持ちの方の意見を聴くことができ、すごく楽しかったです。
ありがとうございました！
- ・ワールドカフェのシステムはわかりやすく多くの交流ができた！
- ・時間が足りませんでした。
- ・震災ツーリズムについてもっと深めたかった。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。